

仏教・宗教

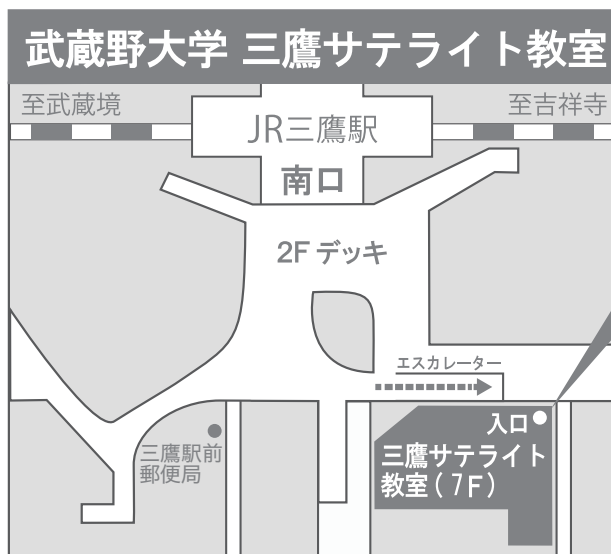
三鷹

0401002

日本仏教の流れから学ぶ

受講料 (振込額)	6,000円				
必携テキスト	――				
講座概要	曜日	水曜日		日程 5月25日 6月8・22日	
	時間	15:00～16:30			
	回数	全3回	定員		20名
	開講場所	三鷹サテライト教室 7F 大教室			
講師	福泉寺住職・本願寺派布教使 小笠原 博慧 (おがさわら ひろとし)				
	1941年生まれ。1965年、私立高校教諭(漢文)。1974年、公立高校教諭(国語)。1999年、同中学・高校校長。その間1975年、國學院大學講師(漢文学)。1982年、市立大月短期大学講師(文学、日本語)。1988年、武蔵野女子大学講師(仏教学、日本仏教史)。同大学仏教文化研究所所員。1988年、福泉寺住職。				
内容	中世末期から近世初期に、京都を中心に法華信仰が広がり、町人の大半が信者になったといわれています。何がそうさせたのでしょうか？ 織田・豊臣氏支配下では、仏教は封建社会の機構の中に組み込まれていきます。統制の対として、一向・法華一揆をはじめ、僧兵の鎮圧などが武力によって実行されました。反面懐柔策もとられ、多面的な対応がなされもしました。 江戸幕府は巧妙な手段で保護と統制を継続しました。寺院法度の制定・檀家制度の強制・宗門人別帳や寺請証文などで、各宗各寺院を完全に支配下におき活用さえもしました。 一方、儒学者・国学者・神道家による排仏論が公に出されました。両者の対立は、思想面の排斥、僧侶の実践面への避難など多岐にわたりました。その状況からは、宗教意識や宗教心などが喪失させられるだけでもありました。 そんな近世の仏教の流れを主にして、当時の宗教状況を探ってみます。				
	持ちもの：配布プリント ① 5月25日：排仏論と仏教の諸問題 ② 6月8日：排仏論と仏教の諸問題 ③ 6月22日：仏教の抵抗運動―殉教―				

武蔵野大学 三鷹サテライト教室



〒181-0013
東京都三鷹市下連雀3丁目26-12
三鷹三菱ビル

JR中央線・総武線
東京メトロ東西線
JR三鷹駅 南口より徒歩1分

三鷹三菱ビル 7F
(三菱UFJ銀行のビル)

1階入口からお入りください。

- ・「受講の手引き」「新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのお願い」を必ずお読みの上、ご参加ください。